

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	16-002	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The association of cigarette smoking and alcohol drinking with body mass index: a cross-sectional, population-based study among Chinese adult male twins. 喫煙、飲酒と肥満度との関連：中国人男性双子での横断解析</p>		
執筆者		
Liao C, Gao W, Cao W, Lv J, Yu C, Wang S, Zhou B, Pang Z, Cong L, Dong Z, Wu F, Wang H, Wu X, Jiang G, Wang X, Wang B, Li L.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2016 Apr 11;16:311. doi: 10.1186/s12889-016-2967-3.		
キーワード		PMID
双生児研究、肥満、遺伝-環境交互作用		27068329
要 旨		
目的：		
<p>肥満は多因子による異常で、遺伝要因のほか環境要因が影響する。肥満関連遺伝子と生活習慣との交互作用も確認されているが、喫煙と飲酒の複合的影響については明らかになっていない。本研究では喫煙と飲酒の肥満との関連を評価し、これらが BMI の遺伝要因を就職するかを検討する。</p>		
方法：		
<p>対象者は Chinese National Twin Registry に登録した 18-79 歳の双子で、男性の双子 6121 組である。BMI と喫煙・飲酒との関連を線形回帰モデルで分析した。また喫煙と飲酒が BMI の遺伝的変動を修飾するかを structure equation model で検討した。</p>		
結果：		
<p>社会的要因や生活習慣を調整した場合、禁煙者は有意に BMI が高く、中等度及び重度の喫煙者は BMI が低かった。BMI は過去喫煙量 (pack-years) が高いほど低下した。これは一卵性双生児ペアの分析でも同様であった。一方、現在の飲酒は、双子ペア内の要因を考慮しても、BMI との関連は無かった。飲酒による遺伝的修飾は、BMI において統計学的に有意であった。</p>		
結論：		
<p>喫煙は、遺伝的影響とは独立して BMI と負の関連を示した。BMI の遺伝的影響は飲酒によって緩和された。例えば常習飲酒者では遺伝要因の影響は弱かった。BMI 関連遺伝子を明らかにする際、遺伝-アルコール交互作用を考慮する必要がある。</p>		